

2009 年度『ブロック共同宣教司牧推進の歩み』の報告書

「ブロック・小教区での部会制の現状と課題について」

ブロック名: 南部地区南ブロックA

記入者 (桃山教会)

提出期限2010年2月28日

提出日 2010年 3月18日

2009年度の「ブロック共同宣教司牧の歩み」の報告書は、昨年に引き続き、「部会制」について、報告してください。「部会制」について、①2009年の各教会の部会の実態、②ブロックが抱える部会制の課題、③部会制が定着するため工夫。④「ブロックの部会」(たとえば、ブロックの典礼部会など)あれば、その活動についても触れてください。

① 2009年の各教会の部会の実態

【伏見教会】

・2007 年度より行っている一斉部会が 3 年目を迎え部会は定着したが、各活動部への登録者は毎週ミサに与る人の 40%弱である。また、活動部によって登録者数に偏りがあり登録者の多すぎ・少なすぎで活動に支障をきたすことがあるが全体への呼びかけにより活動はスムーズであった。部会制は一人一人の意識が高ければ教会活動はもっと活性化されるが、高齢化や仕事を持つ女性が増え教会の活動も全員参加までいかずこの部会制がきちんと定着するにはまだまだ時間がかかる。

〔典礼部〕活動部の中で登録者数が一番多いが 中心になって活動しているのはいつも決まった人が 2, 3 人で、香部屋の仕事などは他の若い方達も取り込みながらの育成が急務。ローテーションを組んでもっと若い力を育てる工夫が必要である。

〔教育部〕登録者数は活動しやすい人数であるが、色々な事情で毎週ミサに与るスタッフは 3～4 人である。スタッフ不足で分級による指導が困難であり男児、女児に分けて活動したり工夫して指導に当たっている。年間を通しての要理の指導が困難である。初聖体の指導については1年間でカリキュラムを考え教材を基に安定している。年間行事の 3 教会合同遠足、合同キャンプ、ウオーカソン、聖劇、子供のための合同クリスマス会など定着している。

〔施設管理部〕教会の掃除、庭の手入れ、電気系統の故障、教会内の営繕・修繕を担当し定期的に活動している。高齢化が進んでいるが活動は定着している。

〔社会活動部〕これまでは教会内行事と教会外のボランティアを中心に活動していたが昨年度から教会内行事を社会活動部から切り離し社会に向けての活動とし、社会活動部本来の姿に戻した。希望の家のバザー、ウオーカソンは定着している。希望の家の配食、のぞみの園ボランティアは個人のボランティアが活動しているが高齢化しつつあり教会としての取り組みが必要。

〔広報部〕登録者は非常に少ない。教会会報、毎週のお知らせ、ホームページの更新など定着しているが少人数のため、体調不良や転勤などで活動ができなくなった時など考えると将来の不安がある。

【桃山教会】

当教会では規約の指針が出された 2005 年より部会制を敷き、毎月の定例部会を開催し教会運営に当たっている。当初、消極的な活動も5年を経て受動的な活動から部会の自主的な活動へと変わってきている。

教会全体行事には部会ごとに担当を割り当て、登録人数の少ない部会は合同で取り組むようにしている。また、自主的に部会が合同で勉強会や教会の問題に取り組むなど部会制はほぼ定着しているのではないと思われる。部会が取り組む活動の日程調整は評議会で行っている。

一方、部会制が定着した反面、セクショナリズムになる嫌いもあり、小教区としての意思疎通、繋がりが希薄になったと感じるという意見も少なくない。下記は各部会から出された現状報告からの抜粋

〔平和・環境〕[部会ができ]良かった。討議したことに行動が伴った。気持ちが一つになった。忌憚のない話し合いが出来る。

〔典礼〕 典礼部会はきちんと活動できている。

〔広報〕 中心となって活動するメンバーが「4名」と、他の部会の参加人数に比較して少ない。→教会誌の編集・発行に苦心

〔財務〕 毎日曜、当番で日曜献金の集計、各種募金活動の協力、決算書の作成、教会の金銭の管理、予算案の作成

〔社会活動〕 桃山教会は順調に行っていると思われるが、意思疎通が希薄。来られない方には状況に応じ、手紙、千羽鶴、霊的花束 etc. 送ればどうか。

〔教育部〕 以前の青年会・婦人会・壮年会などより、教会の仕事をしやすくなった。働く事が多くなった。  
教会内の仕事にどんなものがあるのかが良くわかる。決まりではあるが、部会にはいつて来ない人もいる。属していない人もいる。登録しているが部会に参加しない人がいる。  
部会制になって「私は何もできないので」という言葉を聞くようになった。あっちの部の仕事のように縦割りのになっている。  
教会の運営(修繕、年中行事への対応)にばかり力を注ぐ場になっている。  
〔施設管理〕 登録人員 14 名(2009 年 12 月現在) 常時例会参加者 5～6 名  
少人数の部員間での話し合いしか出来ないのも、小教区全体の交わりが希薄になり、教会生活がたのしくなくなる。

## ② ブロックが抱える部会制の課題

### ・共通する問題として

部会の登録人数に偏りがある。特に教会の運営に直結する共通部会に手薄になる部会があり、部会の活動に支障がないような調整、運営が必要である。

また、部会へ登録していない人、できない人のフォローをいかにするか。部会に登録していない人は往々にして疎外感を感じることがある。部会で活動している人、登録に登録していない人との間で溝ができないように配慮する必要がある。

### ・ブロックの取り組みとしての課題

将来的には合同部会も望まれるが、小教区の温度差があり、部会はあっても定例的な部会が開催されていない小教区もある。また、部会の性格上、合同部会にそぐわない部会もある。3 つの小教区の部会が軽重の差を感じることなくブロックとして一体感をもって活動できることが肝要である。

また、地理的な要素も重要である。ブロックとなると広範囲になるため参加しづらくなる可能性がある。

一方、小教区の特徴やカラーを生かすことも必要であり、小教区の特徴を生かしつつ、ブロックとしての部会制を考えることが課題である。

## ③部会制が定着するための工夫

### 【伏見教会】

評議会前の一斉部会の開催で部会制が少しずつ定着した。部会制の定着には、部会の活性化が不可欠である。部会を活性化するために開かれた教会作りと誰でも楽しく参加できる教会の雰囲気作りに重点をおいた。また、昨年は召命促進元年でもあり、信徒一人一人の召命を教会全体として深めていくことで活動部の活性化にもつながった。

### 【桃山教会】

部会制導入と同時に評議会前の一斉部会を義務付け部会からの意見の吸い上げ、また必要に応じ議題を部会へ下ろし部会の意見を聴集し評議会の審議の際の参考としている。

信徒集会は有るものの、信徒の意見を教会活動に反映できるのは部会からの意見の吸い上げが主となる。信徒の中にこの意識が定着すると自ずと部会が定着してくるものと思われる。そのためには定例的な部会の集まりが欠かせない。

また、部会活動が重荷になると活動が鈍くなる原因ともなるため、ひとつの部会に負担がかからないような配慮も必要である。

### 【八幡教会】

部会としての活動にひとつひとつ地道に取り組み、しっかり部会員が協力してやっていく。

## ④「ブロックの部会」

現在はブロック部会というものは行われていないが、小教区間の横断的な活動として教育部の教会学校担当者が、合同キャンプを中心に合同遠足、合同クリスマス会のために年に4～5回の合同会議を行っている。その他の活動部については教会のカラーもあり情報交換程度が妥当かと思われるが、まだ合同部会を開くに至っていない。

一部の部会からも他の小教区の部会情報を希望する声も出てきているところがあり、今後の課題である。